



新代会
小野 保之
議員

市政運営について

質問 興・育・動と展望を表す一字を掲げて基本目標の達成に努力されているが、任期の仕上げに向けて残り半年となり、今年の展望の「動」についてどのように推進できたのか伺う。

答弁 平成26年の展望として「動」の一字を掲げたのは、市長就任時から現在まで興し・育んできたものを動かし、発展させていかなければとの思いからであり、いくつかの取り組みが実を結んでいます。社会福祉事業団への社会福祉施設譲渡、畜産試験場跡地への夕張ツムラの進出、遊休市有地でのメガソーラー発電施設稼働、赤平市、芦別市が加わった滝川地区広域消防事務組合の広域化、砂川市との複眼型により中心市宣言を行った定住自立圏構想、休日夜間急病センターの市立病院への移転、栄町3・3地区の民間主導による再開発への展望等、着実に動かしてき

ていると考えていますが、残された期間に更に全力をあげて行政運営に当たって行きます。

看護師確保対策について

質問 看護学院生に対して貴重な税金が使われているが、卒業後の勤務が長く続かないのは何か問題があるのではないかと。要因についてどのように捉えているのか伺う。

答弁 市立病院では、平成23年度11人、24年度14人、25年度11人、26年度15人を高等看護学院の卒業生から採用しており、新卒1年目の離職率は、平成23年度は0%、24年度21・4%、25年度9・1%となっています。

離職理由は、療養と転出が主な理由です。全国的にも離職率は減少していますが、離職率低下の要因としては、新人看護師職員研修の取り組みを進めてきたことの効果が示唆されています。

当院においても、専任の研修担当者配置して教育研修体制の充実に取り組み、その成果も出ていますと考えており、今後とも、看護師確保のため継続運営していくことが必要であると考えています。



公明党
三上 裕久
議員

災害から市民を守ることにについて

質問 広島市北部で発生した土砂災害のように、急激な豪雨による土砂災害は、地質の強弱に関わらず発生する可能性があるが、本市における土砂災害危険箇所の実態について伺う。

答弁 本市における土砂災害危険箇所は、江部乙町旭沢地区の丸加高原カントリークラブ北東側の山林区域の1か所です。また、滝川市地域防災計画で地滑り、崖崩れ予想区域に指定されているのは、一の坂町西2丁目から一の坂町東3丁目の傾斜地で、降雨時には監視や現地確認を行い、注意深く警戒をしていきます。

機能性野菜のブランド化について

質問 機能性野菜は、健康志向に対応した販路の確保など、他の野菜との差別化が図れるが、そのよ

うな機能性野菜を滝川ブランドとして生産することへの見解を伺う。

答弁 国民の健康への関心などの動向を見極めて、生産技術や収益性について関係機関の助言も受けながら、生産拡大や取り組みについての可能性を探っていきます。

地域おこし協力隊について

質問 2人の地域おこし協力隊員を採用したが、市としては、どのようなことを期待して採用したのか伺う。

答弁 観光事業の実践者として、滝川の新たな魅力づくりと地域資源を活用した新たなプログラム開発及び江部乙地域の情報発信の役割を担うことを期待しています。

ふるさと納税について

質問 今後、ふるさと納税の控除額の上限が引き上げられることが予想されるが、寄付の特典として滝川産品を大いにPRすべきと考えるが、見解を伺う。

答弁 ふるさと納税制度の積極的活用に向けて内部検討会議を設け、特産品の活用を含めて、今後更に特典内容を検討していきます。